



在京古高同窓会会報
第48号
〒352-0031
新座市西堀2-17-37
在京古高同窓会事務局
TEL・FAX (042) 494-1598
URL <http://www1.ttcn.ne.jp/~furuho>
Email skyoji@jcom.home.ne.jp

発行責任：曾根 研一
編集長：亀井 明
印刷：(株)ケーヨー

新年のご挨拶

会長 高橋 俊裕



皆様、新年をいかがお過ごしでしょうか。

毎年年末になると、多くの方々から新年の欠礼についての便りが寄せられます。ほとんどは身内の方のご不幸によるものですが、一通だけ変わった挨拶があります。東北大学OBで、私の以前の会社の後輩からのものでした。彼は3・11の震災の後、学生時代の友人・知人を訪ねたりして、数回にわたって被災地を訪問したようでありました。その訪問の都度震災後の新たな痛ましい風景に出会ったようでありました。

その情景を累々綴ったあとと唐突に「ついには新年のご挨拶を失礼させていただきます」と結んでありました。私自身被害を蒙らなかつた者同士だけが「おめでとう」と言い合うことに、いささかの抵抗を感じておりましたので、感受性豊かな彼の気持がよく分りました。

た。

同時に、新年のあいさつについて考えてみました。沢山の犠牲者が出たことには痛ましい限りですが、一方で震災から生き延びた大勢の方がいます。この人達にとってこれから「生きる」ということは、どういうことでしょうか。

既に身にふりかかった不幸は不幸として、たくましく再出発している人々の話もニュースなどで多々知るところであります。この方々に共通していることは、希望を持っていくということではないかと思えます。私達は小さな時から新年には、今年は何をしたいかなどとよく聞かれたものでした。

新年の挨拶ということは、新たな希望を探し、みつめ、確認し合うという意味もあるのではないかと、思っています。挫折した人ほど希望を持っているという社会学者もいます。新しい年を生きるための希望を互いに抱いていることを確認し合う意味でも遅ればせながら「新年おめでとうございませう」

さて故郷から元氣の出るニュースがありました。古工の甲子園初出場、古女OGのボクシングWB C世界ミニ・フライ級チャンピオン初の初防衛など、1月28日の四校新年会の集いでも色々紹介があることと思えます。また8月6日の本部同窓会では、東京ではおなじみの音楽家があ

一在京同窓会メモー

- ・会計年度は4-3月、年会費は一口2,000円です。
- ・会の健全運営のため、振替用紙が同封された方には、納入をお願い致します。
- ・次回会報第49号は2012年6月1日発行予定、原稿は常時受付。

集い、会場を沸かせました。更には10月22日の江戸・東京探訪ツアーには、あいにくの雨でしたが23名の方が参加、うち大崎・仙台地区から11名の多数に出席いただき、大いに会員交流が図られました。

終わりになりましたが、3・11震災に際し、母校古川高校への義援金を募りましたところ、在京同窓生からは237名146万4千円と募金いただきました。厚く御礼申し上げます。

義援金は本部・関西雪雲会を合わせ合計511万8千円となり、学校・本部同窓会・生徒会相談の上別途報告のとりの使途となりましたのでご了承ください。それでは本年があらゆる困難・混乱から立直る初年となることを信じつつ、併せて皆様のご健勝をお祈りしつつ、年頭のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

古川高等学校長 鈴木 悟



新年あけましておめでとうございませう。

在京古高同窓会の皆様には、旧年中、大変お世話になりました。とりわけ、東日本大震災で多大な被害を受けながらも、日々の学校生活に励む本校生のために震災特別奨学金となる義援金をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

奨学金を授与された22名は、先輩の皆様方に心よりの感謝を述べ、決意を新たにしております。「大学を卒業して、社会人になり、少し余裕ができたなら、今度私は私たちが母校のために役に立ちたいと思います」とも語ってくれました。実にあつぱれな後輩たちであります。

さて、すでにお知らせしていたことではありますが、昭和30年代以降順次建て増された教室棟が、建て替えられることになりました。現在は、体育館脇のハンドボールコート跡に3階建ての仮設校舎が建設中で、この3月末に引越越しし、4月からは教室棟の建て替え工事に入ります。

平成26年に、新築された教室棟での授業が始まる予定です。同窓生の皆様にとつて、思い出の多い校舎が改築されることに一抹の寂しさを覚える方も多かろうと思えますが、旧制中学校時代の雰囲気色濃く残す正門脇のヒマラヤスギや松の木、桜の木はいまだ健在ですので、帰郷の際は母校にお立ち寄りいただき、当時を思い返しつつ、後輩たちを励ましていただければ幸いです。

私は在京古高同窓会の招きもあり2度上京致しました。6月の総会は、初めての参加ということもあり、大変緊張し

たことを覚えております。高橋会長さん始め社会で大活躍をされている皆様方から、古高への熱い思いを肌で感じました。

「いつでも母校にお立ち寄りください」と申し上げたところ、お二人の先輩が校長室を訪ねてくださり、大変嬉しく思いました。

豊嶋(富田) 耘三氏(昭和18年卒)、角田啓輔氏(昭和26年卒)の御両名です。大変お忙しいところ、母校に立ち寄り、後輩諸君を励ましていただき誠にありがとうございます。会員の皆様方、ぜひ、お気軽に母校にお立ち寄りください。

もう一度の上京は、秋の「江戸・東京探訪ツアー」への参加です。小雨降るなか、江戸城(皇居)大手門から靖国神社まで訪ね、会員の皆様と激動の昭和に思いを馳せることができました。

来年度は、「宮城の小京都 登米もいいね」という声も上がり、地元出身の私としては大変嬉しく思った次第です。もし、実現できましたら、恩返しのためにも心ゆくまで案内をさせていただきます。

今、本校は、文武両道を通し、「志」の実現に向けた学校づくりに加え、「地域に開かれた学校づくり」をすすめる、更に輝きを増すよう邁進しております。同窓の皆様には、今後とも母校古高へのご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、在京古高同窓会の益々のご発展と会員皆様の一層のご活躍、ご健康をお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

本部同窓会事務局だより

新年のご挨拶

古川高校同窓会

会長 渡邊 義之



新しい年を迎え、在京同窓会の皆様方におかれましては、お元氣でお過ごしでしょうか。

常日頃同窓会活動に対し、多大のご協力ご支援を賜っておりますこと、心から謝意を表します。また、在京同窓会が高橋会長さんを中心として多面的な活動をさわめて活発に展開しておりますことに対し、改めて敬意を表する次第であります。

昨年の東日本大震災に際し、在京の皆様方がいち早く母校在校生の為、義援金の募集をして頂き、在校生ともども心から感謝申し上げます。お陰様を持ちまして、本部同窓会・在京同窓会・関西同窓会と合わせて500万円を超える義援金をお寄せ頂きました。

この皆様方の真心のこもった義援金を11月9日、母校校長室で校長先生立ち会いのもと被災在校生22名に対し、一人年12万円の修学援助の奨学金を給付することが出来ました。

被災奨学生は同窓生の思いと絆の強さを実感し、充実した高校生生活を約束してくれましたことをご報告申し上げます。

次に昨年の総会ですが、在京の曾根副会長さんのご尽力により、大活躍中のOB音楽家の演奏と歌で200名の参加者を魅了し、盛会裡に終了することができました。また昨年の11月には卓球界の大御所である角田大先輩が、母校卓球部を激励して頂き、心からお二人の先輩に感謝申し上げます。

大震災の傷いまだ癒されておられません、今年は辰年、昨年訪日し、日本人の心に爽やかな風を吹きこんでくれましたブータン国王の言葉に「我々の心の中には人格という竜がある。この竜を大きくして行くことが大切」という文句がありましたが、同窓会も「蛍雪の絆」というドラゴンを一層大切に、同窓会に愛される活動をするよう辰年にあたり改めて決意致しました。

（昭34年卒）

近況報告

事務局長 大山 義男



本年度、古川高校同窓会は創立101周年の新たな歴史を歩み始

めました。

本年度はご存じの通り3月11日に未曾有の大震災があり、この大崎地域も多くの被害を受けました。復興に向けての忙しい中ではありましたが、本年度の本部総会は8月6日(土)に地元大崎市「芙蓉閣」にて、190名もの参加者を迎え、盛大に開かれました。

当日は震災による被害者を含めた物故者への黙祷、校歌斉唱から始まり、渡邊義之同窓会会長、鈴木悟校長からの挨拶の後、在京同窓会会長高橋俊裕様、関西蛍雪会会長松谷篤郎様からご祝辞を頂きました。その後、叙勲・褒章受章者への記念品贈呈となりました。

その後定例総会が開かれ、平成22年度の会計報告、行事報告、平成23年度の会計予算、行事予定が承認され、平成23・24年度の役員改選の承認を頂き、無事総会は終了いたしました。

また、その他報告事項としまして、本年度東日本大震災に係る古高被災者への奨学支援金を立ち上げたことを報告申し上げ、去る6月の在京同窓会総会の席で本校に138万1千円の義援金を頂いたことを報告いたしました。(その後の追加の義援金を合わせて、総額146万4千円を在京同窓会より義援金として頂戴いたしました。)

また、午後2時40分からは古高卒業生音楽家4名に古女卒のピアノ伴奏者を迎えた5名による公演会が行われました。出演者は千石進氏(仙台フィルハーモニー管弦楽団クラリネット奏者・昭45卒)、工藤春彦氏(東京放送管弦楽団コ

ンサートマスター・昭47卒)、相澤政宏氏(東京交響楽団首席フルート奏者・昭62卒)、成田博之氏(声楽家/二期会所属・昭62卒)、ピアノ奏者として野間春美さん(昭63古女卒)です。

当日の司会進行は、東京混声合唱団事務局長をしていらつしやる在京同窓会副会長曾根研一様にご協力頂き、お一人ずつ在学時代のエピソードや現在の所属団体での活躍の話題を交えながら、それぞれのパートによる演奏をして頂き、最後に出演者全員による囀南歌の合奏で幕を閉じました。曾根副会長様には、今回の公演会の企画から出演者の調整、曲目選考に到るまで細部に渡ってご尽力頂きました。ここに改めて御礼申し上げます。

すとともに、感謝申し上げます。公演会に参加された会員の皆様からも、心に残る素晴らしい公演会でしたと多くのお褒めの言葉を頂きました。

既に22名の生徒に対して奨学金として給付しておりますが、奨学支援金の支出の詳細につきましては次回の本部会報でご報告申し上げます。今後とも同窓会活動に変わらぬご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。(昭56年卒)



ヴァイオリン・工藤春彦さん



ピアノ・野間春美さんと進行役の在京曾根副会長



フルート・相澤政宏さん
バリトン歌手・成田博之さん



クラリネット・千石 進さん



公演の最後は、古高での恩師・友川先生(S31年卒)の指揮で「囀南歌」を演奏

平成23年度
総会報告

平成23年度定時総会開催

6月25日メルパルク東京
平成23年度の定時総会は6月25日(土)の11時半から、東京芝公園の「メルパルク東京」に於いて開催されました。

出席者は会員55名で、総会の部の司会は亀井(S55年卒)が務め、議事に先立ち、先の震災で亡くなられた方および亡くなられた同窓生への黙祷を捧げ、校歌斉唱の指揮には、「NHK歌謡コンサート」に毎週生出演しているオーケストラ(東京放送管弦楽団)のコンサートマスターを務めている工藤春彦氏(S47年卒)にお願しました。高橋会長の挨拶の後、議長には上野正司氏(S39年卒)が選任され、次の4つの議題について審議され、いずれも原案通り承認されました。(4面参照)

〔第1号議案〕

平成22年度活動報告承認の件

(議案説明 曾根副会長)

〔第2号議案〕

平成22年度の決算報告及び監査報告の件

(議案説明 佐々木事務局長 / 監査報告 谷地森監事)

〔第3号議案〕

平成23年度活動計画承認の件

(議案説明 大友副会長)

〔第4号議案〕

平成23年度予算案承認の件

(議案説明 佐々木事務局長) 全体としては、会員からの会費収入が減少し、蓄えの取り崩しで

賄われている状況が続いており、憂慮される事態であることが示されました。 現行の役員

- 会長 高橋 俊裕 (S33年卒)
- 副会長 春田 紘輔 (S27年卒)
- 副会長 曾根 研一 (S30年卒)
- 副会長 大友 正行 (S33年卒)
- 事務局長 佐々木恭次 (S38年卒)
- 編集長 亀井 明 (S55年卒)
- 監事 谷地森 税 (S26年卒)
- 監事 児玉 隆行 (S36年卒)

来賓には、本部同窓会の渡邊義之会長(S34年卒)、高橋亨副会長、母校より鈴木悟新校長、大山義男同窓会事務局長(S56年卒)にご臨席いただきました。

挨拶をいただきました後、在京古高同窓会から、震災の義援金が生徒会長の須藤君に手渡され写真左、感謝の言葉がありました。



講演の部は、大崎市の伊藤市長が「大崎市震災状況とその後の復興」についてお話をいただきました。写真下右



今回の震災では沿岸部の津波被害と原発事故がマスコミ等で取り上げられることが多いものの、大崎市のような内陸部の被害もまた大きく、具体的な被害状況の説明があり、市として全力を挙げて取り組む固い決意を示され、震災復興推進室の設置、震災復興基本方針等策定等につきまして説明をいただきました。

懇親会の部はS46年卒の笠間さんが司会を務め、賑やかな宴となり、楽しい時間を過ごしました。写真左 (文責 亀井)



平成23年度 定時総会出席者名簿 (敬称略)

(来賓6名他)

伊藤 康志 (市長) 鈴木 悟 (学校長 佐沼出身) 渡邊 義之 (同窓会会長 昭34卒 東大崎出身) 高橋 亨 (同窓会副会長 昭23卒 古川出身) 大山 義男 (同窓会事務局長 昭56卒 岩出山出身) 松ヶ根 典雄 (大崎市役所 昭51卒 田尻出身) 須藤 大勝 (生徒会長 不動堂出身)

(会員55名)(カッコ内は出身地)

昭18 豊嶋 紘三 (田 尻)	昭28 早坂 明久 (小野田)	昭30 曾根 研一 (西大崎)	昭33 高橋 俊裕 (富 永)	昭39 上野 正司 (鳴 子)
昭20 安部善次郎 (古 川)	昭29 高橋 清亮 (富 永)	昭30 平野 武 (長 岡)	昭33 高野村 裕義 (古 川)	昭39 後藤 雅正 (宮 崎)
昭23 鈴木 大吉 (小牛田)	昭30 相原 光彦 (色 麻)	昭30 和田 正志 (高清水)	昭33 高野村 福原 (古 川)	昭39 上野 正司 (宮 崎)
昭24 門脇 健 (東大崎)	昭30 尾崎 光彦 (田 尻)	昭30 和田 勝義 (田 尻)	昭33 高野村 福原 (古 川)	昭39 上野 正司 (宮 崎)
昭26 三浦 澄能 (古 川)	昭30 門脇 喜代志 (東大崎)	昭30 渡辺 吉郎 (志 田)	昭33 高野村 福原 (古 川)	昭39 上野 正司 (宮 崎)
昭26 角田 啓輔 (古 川)	昭30 門脇 敏明 (鳴 子)	昭30 相澤 昭男 (三本木)	昭33 高野村 福原 (古 川)	昭39 上野 正司 (宮 崎)
昭27 谷地森 税 (古 川)	昭30 岸 康男 (鳴 子)	昭30 浅野 清 (小牛田)	昭33 高野村 福原 (古 川)	昭39 上野 正司 (宮 崎)
昭27 氏家 明朗 (岩出山)	昭30 岸 木英三 (志 田)	昭30 大友 正行 (松 山)	昭33 高野村 福原 (古 川)	昭39 上野 正司 (宮 崎)
昭27 佐藤 清勝 (中新田)	昭30 佐々木 豊 (古 川)	昭30 大山 隆志 (古 川)	昭33 高野村 福原 (古 川)	昭39 上野 正司 (宮 崎)
昭27 春田 紘輔 (古 川)	昭30 佐藤 忠良 (三本木)	昭30 佐々木 光一 (古 川)	昭33 高野村 福原 (古 川)	昭39 上野 正司 (宮 崎)
昭28 中川 裕雄 (志 田)	昭30 佐藤 輝久 (荒 雄)	昭30 鈴木 将夫 (三本木)	昭33 高野村 福原 (古 川)	昭39 上野 正司 (宮 崎)

佐藤 啓三 (S40年卒 中新田)

中小企業診断士
ISO (品質・環境) 主任審査員
エネルギー管理士
東京都温室効果ガス検証主任者

携帯 090-1438-9132
FAX 045-953-3894
E-mail: fzn04730@nifty.com
〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19

内科・小児科
長井内科

院長 医学博士
長井弘策

〔昭和31年卒(高8回) 古川高校同窓会副会長〕

〒989-6154
大崎市古川三日町1-3-25
TEL 0229 (91) 1020



<第1号議案> 平成22年度 活動報告

平成22年4月1日～平成23年3月31日

年月日	活動内容	場所
平成22年 5月22日(土)	会報「蛭雪45号」と総会案内発送(会員730名)	信陵会館
6月26日(土)	定時総会、懇親会 ヴァイオリン演奏 工藤春彦氏(S47卒)	メルパルク東京
8月7日(土)	本部同窓会総会出席 (高橋会長、春田・曾根副会長、佐々木事務局長、千坂・上野幹事)	大崎市「芙蓉閣」
10月23日(木)	「江戸・東京を楽しむ会」 (本部2名、在仙3名、在京15+同伴者1名、計21名出席)	両国界限 ～隅田川
12月18日(土)	会報「蛭雪46号」及び四校合同新年会案内の発送(会員715名)	信陵会館
平成23年 1月29日(土)	「第18回 旧古川市内四校関東同窓会 新年の集い」開催 (幹事校・古川学園) (古高 92名、黎明 76名、古工 35名、古学 38名 四校来賓 4名、計245名出席)	上野精養軒
3月1日(火)	「東京蛭雪賞」授与、並びに古高卒業式出席(大友副会長)	古川高校

<第3号議案> 平成23年度 活動計画案

平成23年4月1日～平成24年3月31日

年月日	活動内容	場所
平成23年 4月10日(日)	「古高生及び母校への義援金」(東日本大震災)趣意書発送	信陵会館
5月21日(土)	会報「蛭雪47号」と総会案内発送(会員706名)	信陵会館
6月25日(土)	定時総会、懇親会 講演：伊藤康志 大崎市長 「大崎市震災状況とその後の復興について」	メルパルク東京
8月6日(土)	本部同窓会総会出席	大崎市「芙蓉閣」
10月22日(土)	会員交流会「江戸・東京探訪ツアー2011」 江戸城と激動の昭和史散策	皇居周辺 ～靖国神社
12月17日(土)	会報「蛭雪48号」及び四校合同新年会案内の発送	信陵会館
平成24年 1月28日(土)	「第19回四校合同新年会」開催 (幹事校・在京古高同窓会)	上野精養軒
3月1日(木)	「東京蛭雪賞」授与、並びに古高卒業式出席	古川高校

- ◎役員・幹事会：信陵会館
- 第1回 H.22年 5月22日(土) 15名(総会運営他)
 - 第2回 H.22年10月 2日(土) 15名
(在京・本部総会報告、46号会報発行内容他)
 - 第3回 H.22年12月18日(土) 16名
(「江戸・東京を楽しむ会」報告、四校新年会準備他)
 - 第4回 H.23年 3月26日(土) 15名
(四校新年会報告、定時総会準備他)
- ◎四校合同幹事会：東京文化会館会議室他
- 第1回 H.22年10月22日(金)
 - 第2回 H.22年12月 3日(金)
 - 第3回 H.23年 1月21日(金)
 - 第4回 H.23年 3月23日(水)
- 古高出席者：春田 曾根 岩崎 佐々木(恭)

- ◎役員・幹事会：
- 定例は年間4回、その他必要事案により関係役員・幹事会を開催
- 第1回定例5月21日開催：総会運営他
 - 第2回定例10月1日開催：総会報告他
- ◎四校合同幹事会：
- 四校合同新年会(H24.1.28)にむけて、10月下旬から1月中旬までの間に3～4回開催する。
- 古高出席者：春田 曾根 佐藤(清) 岩崎 佐々木(恭)

第2・4号議案 平成22年度決算／平成23年度予算

収入の部

科目	H22年度決算額	摘要	H23年度予算額
年会費	687,000	309名 343.5口 @2,000 / 340口	680,000
広告料	100,000	企業・個人広告	80,000
寄付・祝儀金	20,000	個人寄付	20,000
雑収入	12,686	剰余金他	30,000
収入計	819,686		810,000
前期繰越金	2,120,935		1,769,587
合計	2,940,621		2,579,587

支出の部

科目	金額	摘要	金額
会議費	141,559	役員・幹事会資料代他	140,000
印刷費	544,240	会報、案内状、封筒他	510,000
事務用品費	16,993	コピー・文具代他	15,000
事務所経費	58,000	信陵会館年間契約料他	60,000
通信費	189,946	電話、切手、はがき他	180,000
慶弔費	53,000	東京蛭雪賞他	60,000
旅費交通費	74,980	本部総会、卒業式出席旅費他	60,000
活動強化費	58,000	名簿広告他／義援金手数料他	110,000
雑費	34,316	年会費振込手数料他	35,000
支出計	1,171,034		1,170,000
次期繰越金	1,769,587		1,409,587
合計	2,940,621		2,579,587

会員による自由投稿

山歩き雑感

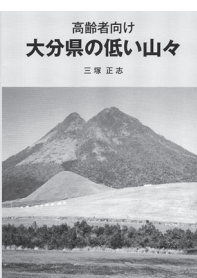
腰痛持ちの山歩き

昭30年卒 三塚 正志



私は昭和30年古高を卒業し、北大に入学した。入学と同時に長距離走と山歩きを始め

私は県内の約300座の山に登ったので、その中から歴史と魅力のある100座の山を本で紹介する計画を練っていた。



高齢者向け 大分県の低い山々 三塚 正志

の症状はほとんど起こっていない。ウォーキングを山歩きの一部と位置付け、歩きながら痺れの状態を観察している。

平成22年秋からは痺れがほとんど起こらないので、制約条件を標高差約1200m以内、登り時間約4時間以内で緩和している。

科)を卒業し、八幡製鉄に入社した。九州では雪が少ないので、冬でも走と山歩きができた。山では九州100山を完登し、長距離では昭和40年代に市民クラブを結成し、監督と補欠選手を務めた。

平成17年3月末に退職し(68歳)、その後約2年間で執筆対象の山々を再調査する計画だった。ところが、退職直前に坐骨神経痛で歩行が困難になった。原因は、腰部の椎間板が押しつぶされて背中側にはみ出す腰部脊柱管狭窄症である。

平成22年秋からは痺れがほとんど起こらないので、制約条件を標高差約1200m以内、登り時間約4時間以内で緩和している。

私は県内各地にある山の神登山道の再生に努めてきた。その方法は、登山道の草木を伐採し、目印テープを取り付けることであった。

平成17年3月末に退職し(68歳)、その後約2年間で執筆対象の山々を再調査する計画だった。ところが、退職直前に坐骨神経痛で歩行が困難になった。原因は、腰部の椎間板が押しつぶされて背中側にはみ出す腰部脊柱管狭窄症である。

平成22年秋からは痺れがほとんど起こらないので、制約条件を標高差約1200m以内、登り時間約4時間以内で緩和している。

古高生及び母校への義援金について

"一人ひとりの力は小さくても、皆さんの力を合わせれば大きな力になります。" "お寄せいただきました義援金は総額1,464,000円になりました。ご協力ありがとうございました。" 以下にご芳名(敬称略)を記してお礼に替えさせていただきます。

- List of names and amounts: 昭12 野村 昭13 野村 昭14 野村 昭15 野村 昭16 野村 昭17 野村 昭18 野村 昭19 野村 昭20 野村 昭21 野村 昭22 野村 昭23 野村 昭24 野村 昭25 野村 昭26 野村 昭27 野村 昭28 野村 昭29 野村 昭30 野村 昭31 野村 昭32 野村 昭33 野村 昭34 野村 昭35 野村 昭36 野村 昭37 野村 昭38 野村 昭39 野村 昭40 野村 昭41 野村 昭42 野村 昭43 野村 昭44 野村 昭45 野村 昭46 野村 昭47 野村 昭48 野村 昭49 野村 昭50 野村 昭51 野村 昭52 野村 昭53 野村 昭54 野村 昭55 野村

(匿名希望1名)

『江戸・東京 探訪ツアー 2011』

今回の探訪は、普段訪れることのない江戸城（皇居東御苑）と戊辰戦争以降の近代戦史の集大成している遊就館（靖国神社）に懇親会中国飯店への約6kmの約3時間半コースを選び、10月22日（土）当日は仙台・大崎から11名参加に、特別参加の学生1名を含めて総勢23名（夫妻参加3組）でした。

江戸城大手門前は晴れておりましたが、富士見櫓、松の廊下跡から天守台辺りで生憎の雨が激しくなりましたが、北桔橋門から北の丸公園を抜けて、靖国神社境内の遊就館に着く頃には晴れました。予期していない雨中散策となりましたが、中国飯店での会食は楽しいものでした。次回探訪は、興味があつて参加し易い所を企画していきます。

（昭38佐々木恭次 事務局）

参加者（敬称略）

- 【本部】 鈴木 悟（学校長） 渡邊義之（昭34）
- 成田 良正（昭36） 同夫人 大島秀世（昭46）
- 庄司 圭（昭61）
- 【在仙】 中島正二（昭27） 高橋健三（昭30）
- 堀越五郎（昭30） 荒谷正咲（昭38）
- 千葉治郎（昭40）
- 【在京】 門脇 健（昭24） 同夫人 佐藤清勝（昭27）
- 門脇喜代志（昭30） 京極恒由（昭30）
- 曾根研一（昭30） 大友正行（昭33）
- 高橋俊裕（昭33） 同夫人 渡邊紘也（昭33）
- 佐々木恭次（昭38） 桜中辰哉（特別参加：学生）

「江戸・東京探訪ツアー 2011」散策

昭30年卒 京極 恒由

探訪ツアーに参加させていただきありがとうございました。

皇居お堀の北側は初めてで、とても楽しみにしながら参加しました。ご家族同伴の方々の参加もあり、賑やかな良い散策会でした。当日早めに東京駅に着き、大手門近くの将門の首塚に出かけてみました。旧大蔵省その後のアメリカ軍のモータープール建設時にも死者続出で取りやめ、土一升、金一升のこの地が空地になっている所です。ここから、竹橋に出てお堀り沿いに伊達政宗築造の大手門に戻ると、既に大崎・仙台から新幹線で来ていた懐かしい顔触れに会いました。



大手門前集合

門脇先輩の先導で緊張しながら大手門を入り、大番所・松の廊下・天守台へと周った。生憎の雨で傘を差しての散策でしたが、幹事の

段取り良さで予定通り進行できました。石垣の石は一つ一つ驚くほど大きく、伊豆などで石切り場を見ますが切り出し、運搬の苦勞が忍べれます。江戸城の本丸二の丸、三の丸は今に残っていません。

歴史に名高い松の廊下もなく、一面大きな芝生になっています。昨年の大河ドラマ『お江』で、姉の初とお江の江戸城での生活に思いを重ねながら散策しました。

このあと北桔橋門を出て北の丸公園・戦争の跡を記録の遊就館・靖国神社などを周りました。ここから更にお堀に沿って北側に行く。ここには幾つかの思い出があります。憲政会館では古川高校の総会を大先輩の故伊藤宗一郎さんが昭和40年初め頃開いてくれたことがありました。さすがに伊藤宗一郎さんが来ると古川高校の総会は活気づきました。その後土井たか子さんから衆議院議長を引き継いで大活躍されました。

当時、私は東京を離れる頃で、新幹線はまだなく、これからは容易には東京に來れなくなると思い参加し、偉大な伊藤宗一郎さんを遠くから見えていました。いま大震災の復興策が盛んに検討されていますが、伊藤宗一郎さんはどんな策をたてられるのでしょうか。

ここから、更にお堀に沿って行く。日比谷公園です。明治の中頃造られた日本初の西洋式公園です。日比谷公園に隣接して桜田門・二重橋広場・楠木正成像があり、周ったことがあります。お堀の南側のこんな思い出に引き続いての今回の北側の散策でした。

の懇親会です。同窓会本部渡邊会長、在京高橋会長の大震災等に関連のお話などあり、引き続き、楽しい懇親会に入り盛大なうちに締めくくりとなりました。こうして、今回の江戸・東京探訪ツアーは無事終了しました。



大手門前にて

「江戸・東京探訪ツアー 2011」に参加して

昭27年卒 中島 正二

この度、標記の行事に参加する機会を得、勇んで出掛けた次第でした。大手門・二重橋は何度か見学しましたが、いつも慌しく通過するのみでしたので、一歩でも皇居に足を入れることに、私なりに期待を込めての参加となりました。

大手門に集り、まずは大手門は勿論、天守台跡や周囲の石垣と相俟って、その雄大な様は何度見ても江戸幕府の強大な権力のシンボルとして圧倒されます。

青葉城を始め、全国の城も強大なものと思えますが、私の思い込みかどうか、一段上に見える気がします。利器の未発達な時代に（徳川とは限りませんが）あのような巨大な石をいかに運搬し、かつ積み重ねたものか、極めて初歩的な疑問であります。改めて人間の知恵の深さを感じさせられました。もし五層天守閣が残っていたら当然国宝だろうし、圧巻だったろうと想像したところです。



皇居東御苑にて

心の一等地中の一等地の中に、広大な自然が残る土地が存在することを驚異に感ずると同時に、大事にしなければと思う一人です。

靖国神社も初めての参拝です。様々な議論があり、左右どちらが正論か判りませんが、その荘厳さは実感できたつもりです。遊就館というミュージアムも初めて見ました。見学して見聞が広がったと思います。（左面に続く）

戦争は誰もが否定すると思いがすが、人により歴史感があり、それぞれ人の考え方に異論を挟むことは難しいと思います。戦争により身内を失くした方々は、靖国神社を心の寄り所としておられると思います。私としては歴史を勉強し直さなければと思っっているところです。

「東京探訪ツアー」に参加して

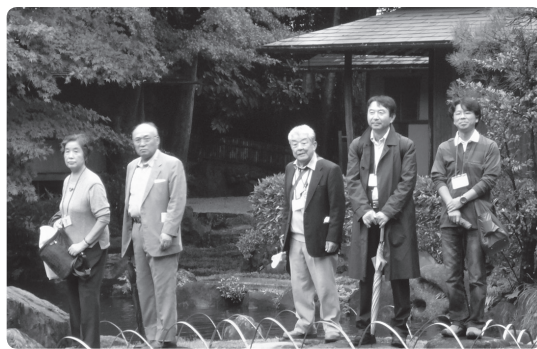
昭36年卒 成田 良正

朝から雨模様。然し心は躍る。観たい江戸城。只その一心だけである。はやる気持を押さえながら家内を伴い集合場所に向いました。門脇先輩を先頭に大手門をくぐり、同心番所、百人番所と歩み、大番所には忍者の郷の者4隊からなる武士達が詰めていたとは驚きでありました。次は「松の廊下跡」である。赤穂藩主浅野内匠守長矩が、江戸城松の廊下で高家筆頭吉良上野介義央に切りかかった刃傷事件の場所である。

雨が一段と激しく降り出し、しばし休憩。江戸城天守閣は家康・秀忠・家光の三代にわたって建て替えられ、5層5階・50メートルの高さと門脇先輩より聞く。これが明暦3年の「振袖火事」で消失して以降、天守閣は再建されなかった。何故再建されなかったかは疑問は残るところではあるが...

天守閣跡地に立っている今、国会議事堂に向け「東日本大震災で多くの被災者が困難な生活を余儀なくされ、被災地の復興が急がれております。議員の方々、民意に耳を傾け、第三次補正予算を速や

かに成立させ、年内の予算執行を確実にしてほしい」と願いつつ江戸城を後にした。



靖国神社庭園にて

「江戸・東京探訪ツアー」

2011」に参加して

昭46年卒 大島 秀世

そのツアーは、古高本部同窓会・在仙古高同窓会・在京古高同窓会の三者共同企画で、実行主体は在京古高同窓会で催されました。

このご案内をいただいた時私は、皇居に集合して九段坂を登り、靖国神社に向うという行程に、思わず島倉千代子さんの「東京だよお母さん」を思い浮かべました。「あれが二重橋、記念の写真を撮りましょうね」。九段の神社にいる戦死した優しかった兄さんもお母さんが来てくれ、さぞ喜んでいてとでしよう...

予定にはなかった浅草寺の観音様参拝と「お祭りの縁日」のよう

な仲見せ通り、生憎の雨の中23名の方が参加なさいました。私が午前10時頃に皇居大手門に到着した時には、殆どの方が集合していました。お早い方は早朝から皇居東御苑から外苑を散策なさっていたそうです。ちなみに出発時間は10時45分でした。



遊就館にて

出発地点の江戸城（皇居）大手門で全員集合の「記念写真」を撮りました。2万坪におよぶ広大な江戸城跡（皇居）の雨中での行軍は、参加された諸先輩とご同伴された奥様方々にはさぞやつらかったのではないかとご推察しました。

若輩の私が生意気かもしれませんが、参加して率直な感想を3点ほど。

①江戸城にて

昨年放送されたNHK大河ドラマ「江」（こう）の中で、徳川家康・秀忠親子は江戸城を、大阪城を凌駕する「日本一」の城にしたいと考えていたようです。それも有り、安土・桃山時代の

城作り名人といわれる藤堂高虎を豊臣秀吉の家臣の時は伊予7万石の小大名から伊賀・伊勢32万石で召抱えたものの「日本一」は敷地の広さだけだったのでは？

秀吉に深く恩義を感じていた石工たちは付き従わなかった。

②靖国神社「遊就館」を拝観して

そこには古代から江戸時代までの「武の精神」の様々な表現が展示されていました。

明治維新以降の国内外での戦争についての歴史・資料が展示されていました。戊辰戦争・西南戦争・日清戦争・日露戦争・満州事変・支那事変、そして第二次世界大戦（館内では「大東亜戦争」の開戦から終戦まで、神風特別攻撃隊員の遺書、遺品、人間魚雷「回天」が展示されていた。

私は以前に隣国、韓国にある「THE WAR MEMORIAL OF KOREA」（韓国戦争記念館）を訪問した事を思い出しました。それは、首都ソウルの街中の広大な敷地内にありました。

朝鮮半島に住む朝鮮民族が太古から様々な内憂外患に晒され、それをいかに克服してきたか。それでも未だに民族・家族達が南北に分断されたままで、緊張状態にあることに付いて私自身学ぶところでした。

そして、日本と韓国の歴史認識の隔たりを感じました。「遊就館」を見学している間、二つの歌が私の耳の奥で木霊していました。亡父が酩酊すると吠えるように歌う「歩兵の歌」

（万朶の桜が襟の色...）と「戦争を知らない子どもたち」（戦争が終って僕らは生まれた...）の二つでした。因みに韓国戦争記念館では「We shall overcome.」でした。

③和気合い合いの大懇親会

私たちは、門脇先輩のご案内の下に昼食・懇親会場である「中国飯店」に向かい、九段坂を下ったのは14時頃でした。雨中での大行軍、そして昼食時間も大分経過していたので、皆様疲労困憊の極に達しているのではと思いきや、ご主人（同窓会会員）とご同伴で特別参加くださった美女軍団（紅3点）のお姉様方（若輩の私より若干年上かな？）のお元氣なこと。乾杯の後でお姉様方にご挨拶伺いましたところ、舌滑らかにご返答下さいました。私の「東京だよお母さん」論をお話したところ、何人かの方にご同感いただきました。非常に楽しい時を有難うございました。



中国飯店にて懇親会

お知らせ
第19回 旧古川市内四校関東同窓会「新年の集い」

【日時】平成24年1月28日(土)
11:00~総会
11:55~講演
岩瀬昭典氏(河北新報社 取締役 東京支社長)
演題「仙台人と東京」
東京をはじめとする首都圏の地名と、ふるさとの知人の苗字が同じというケースが多いことに不思議を感じたことはありませんか?
東北人は、関東と極めて深いつながりがあるのです。
12:55~15:00懇親会
【会場】上野精養軒
JR上野駅公園口から徒歩5分 電話(3821-2181)
【会費】8,000円



【岩瀬昭典氏 略歴】



昭和26年 岩出山出身
昭和45年 古川高校卒
昭和49年 早稲田大学政経学部政治学科卒
同年 河北新報社入社
水沢支局長、気仙沼支局長、本社論説員
などを経て現在、同社取締役東京支社長

会員通信

●東日本大震災では、東京中央ロータリークラブから義援金3千万円を拠出しました。石巻にもボランティア活動が行きました。
●会報「雪雷」47号ご送付いただき有難く拝読致しました。震災見舞いや義援金募金等のご活躍に敬意を表します。母校古高は古高らしく活動成績をあげて居りますので、これからもよろしく願います。
●1年余り持病に悩まされていましたが、やっと落ち着きました。そこへこのたびの震災。親類にも行方不明者が出るほど、現地は想像を超える難儀と見えます。この日も早く光明が満たされるよう祈るこの頃です。
●後期高齢者となって3年を過ぎました。健康保持のため水泳教室に通ったり(週2回)、狭い庭での土いじり(趣味の園芸)に精を出したりしながら元気に過しております。
●東日本大震災、気にかけていましたが同窓会会報の記事、そして写真を見てあらためて被害の大きさに心を痛めています。郷里の知人友人は皆、無事だったのが何よりです。
●雪雷47号、大変嬉しく拝読させて頂きました。本当作成ご苦労をおかけ致しており、感謝しております。(S29小野賢次)
●大手グループで集められた義援金は、有効かつ迅速に被災者の手許に届けられるべきだが、現状はさにあらず。隔靴搔痒の感あり。(S29菊地 務)
●古き良き地名が、思慮に欠けた自治体の一存で安易に変えられてしまっているの悲しいものである。わが故郷・小牛田が消え、美里町になってしまい、クラス会で評判はよいはずがない。(S29三浦憲一)
●町の講座で「陶芸指導」の発表会で、尺八で合奏・埴輪の試作。(S29湯本良師)

●己の人生最終点へ充実したものにしようとして健康に気をつけ、一日一日を大事に過ごしているつもりです。同窓の絆を確かなものにしながら。(S30門脇敬明)
●先日、小野田少尉の御講話がありました。(極限に生きる)日本は天皇の国也、皇室の存在は日本人の礎である。(武士道)をみました。
●あの悪魔の日、3月11日は夢ではないのか、夢であって欲しい。然しながら、あの大きな被害がむなし現実です。被災地の一日も早い復興を切に願うのみです。(S30横山 武)
●在京古高同窓会会長の高橋後裕様、並びに副会長の皆様、役員の皆様により、立派な同窓会を開催して頂き感謝致して居ります。日頃は何にもご協力の出来な

私ですが、心から有難く思っています。毎年の恒例となっています。古川4校の新年の集い、楽しみにしています。皆様とお会いする日を数多くもちたいと思います。(S31浅野 清)
●弊社ササキビルに、1Fにオーブンで来入居していた(株)日本振興銀行蒲田支店が、23年10月をもって退室。(皆様周知の通り、朝日全国版掲載)第2京浜国道沿い、京浜急行蒲田駅真向かいで(只今高架駅工事中)箱根駅伝復路、毎年写ります。屋上看板4面(東西南北)があり、作業も最中です。
●(S33佐々木商事 佐々木光一 路)生家大崎市大宮1丁目古くは古川小の倒壊寸前とか、そばに兄の建屋の小さな方で母・姉2人が生活しています。色々な情報有難うございます。「大崎広報」を送っていただいています。震災惨状少々知らされています。(S34村上金五)
●毎週土曜日は野球、日曜日はソフトボール、両方のリーグ戦で疲れ果てても全力で楽しんでます。60歳以上で腕に覚えのある後輩でチームに入ってくれる人募集中です。
●(S36上福岡高等看護学院 江崎 肇)仙台・古川に行ってきたが古川旧メインストリートは、つぶれ落ちていく家が多数あり、本当に大変な事態である事を実感して帰ってきた。原発の運事に怒りを覚えています。(S36菅野俊次)
●原発の状況は深刻だ。4月末新幹線やつと開通、彼岸に行けなかった墓参りと被災状況をこの目で確かめた帰省。激震で母屋が倒壊した友人を見舞い近郷を見て廻った。少年時代、古川の街の中心として賑わった7丁目町は震災の爪跡大、往時の面影無し。立ち上るエネルギー有りの静かに耐え踏ん張っている。政治の動きは鈍い。「動けば雷鳴の如し」の政治家は居ないと言うことか。(S36高橋幸裕)
●22年度会費納入一覧を見て驚きました。世代別に見ると70歳代が6割と圧倒的多数を占め、60歳以上で9割を越し、何と40歳代は2名、30歳代は0でした。何とか若い方々の増加を図る知恵「工夫・PR方法等ないものか」と思うこと頻ります。(S36長井 清)
●東日本大震災にて我が実家が倒壊し、現在アパート住まいにて建て直しを余儀なくされております。同じような被害にあわれた方々には心よりお見舞いするばかりです。(S37六戸照男)
●大崎市に最新の病院が建設されました。それに伴う元気が湧き、新しい扉、新しい世界が開化するモニュメント(作品)を考案しています。(S38造形美術家 宮本信夫)
●母校の活躍、楽しみにしています。重責がまだ続いています。ゆっくりに母校を訪ねたいのですが、いつのことになるやら、です。(S39山本 混)
●今回の大震災で「今まで」と「これから」を改めて考えねばと思う日々となっています。(S39文教大学 笹原誠二)
●幹事の皆様、いつも大変お世話になっております。動物衛生研究所を退職し、4月1日から(独)農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター(生研センター)東京事務所にて研究リーダーとして働いております。
●(S41農研機構・生研センター 高橋秀之)5月1日(7日)にかけて、古川・鳴子・気仙沼と被災地に行つてまいりました。親戚に2名の死者と1名の行方不明者があり、大変な被害の甚大さに、ただ驚きと悲しみを味わいました。「ガンバレ東北」(S41警視庁嘱託 八木正志)

貸ビル、貸マンション業
株式会社 佐々木商事 代表取締役
株式会社 アクアバンドジャパン 代表取締役副社長
佐々木 光一路 (昭和33年卒)
〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル-0035
第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
電話 (3739) 2468
FAX (3732) 7700
HOT Line 090-3202-6393

情報処理のエキスパート 完成図書・デジタル化総合サポート
専任スタッフ・有資格
電子納品作成支援
おまかせください!
導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。
代表取締役会長 早坂清吉 (昭和29年卒)
株式会社 ケーヨー http://www.keyo.co.jp E-mail:info@keyo.co.jp
本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-1-6
☎ 03-3242-0191 FAX 03-3242-0167

心よりご冥福をお祈りいたします
永沢 幸七氏 (昭55年卒)
遠藤 秋男氏 (昭14年卒)
高橋 助夫氏 (昭20年卒)
伊藤 敦氏 (昭23年卒)
熊谷 文男氏 (昭24年卒)
柳田 勇功氏 (昭31年卒)
平成23年5月8日
私たちが首都圏在住者としてしましては、電力や水産物を含む食料品・工業製品に至るまで、その多くをこれまで東北地方に頼ってきましたので、これからも恩返しを続けていかなければなりません。筆者の勤務しているプロ合唱団も、南三陸町・登米市・陸前高田市などに復興支援コンサートへ。また、娘も音楽家ですが震災直後、仙台も多賀城などで演奏を行ってきました。復興に向けて、これからも応援し続けます。(曾根)

編集後記
私たちが首都圏在住者としてしましては、電力や水産物を含む食料品・工業製品に至るまで、その多くをこれまで東北地方に頼ってきましたので、これからも恩返しを続けていかなければなりません。筆者の勤務しているプロ合唱団も、南三陸町・登米市・陸前高田市などに復興支援コンサートへ。また、娘も音楽家ですが震災直後、仙台も多賀城などで演奏を行ってきました。復興に向けて、これからも応援し続けます。(曾根)